平成 22 年度「木育マイスター」育成研修委託業務　業務実施報告書

も　く　じ

● 事業概要 ---------- 2

● 事業スケジュール ---------- 3

● プログラムの作成
　プログラムの作成---------- 4
　現地情報の収集---------- 6
　受講生の募集と選定方法---------- 6

● 研修会の実施
　北見会場---------- 7
　札幌会場---------- 10

● ＯＪＴの実施 ---------- 13

● 次回に向けて ---------- 14

●事業概要

当事業は、「木育」の理念を十分に理解し、民間における「木育」活動の企画立案や全体的なコーディネートができ、地域において指導的な役割を果たすことができる人材を育成することを目的に、木育マイスター育成研修を行うものである。

木育マイスター育成研修のカリキュラムは 6 つに分かれており、①木育の理念、②森づくりの仕事や樹木などの基礎知識、③暮らしと産業の関わり、④人の成長過程における木の存在や癒し効果、⑤木育プログラムにおける伝える技術、⑥木育プログラムの考え方と企画の仕方である。

会場は札幌と北見であり、時間数は全 24.5 時間である。今回は各会場で 1 泊 2 日の講座を前半と後半の 2 回行った。ＯＪＴは、前半と後半の講座の間（11 月上旬から 1 月下旬）に行った。

当カリキュラムを修了すると、北海道より「木育マイスター」として認定され、木育に関する活動機会には指導者として活躍することが期待されている。平成 22 年度の第 1 期生として 38 名の木育マイスターが誕生した。

・本事業における業務

1)受講者の募集

道内の木育の実践者や木育関連団体への広報を行う。

メディアリリースなどで広く一般からも参加者を募る。

2)研修会の開催

「木育達人入門」をテキストとし、室内講義と実習においてテキスト内容を全て履修できるカリキュラム設定を行う。

札幌会場と北見会場で行う。

3)ＯＪＴ研修の実施

室内講義や実習で習得した内容を実践するためのＯＪＴを実施する。

●事業スケジュール

■事業スケジュール

北海道と当法人で打ち合わせを重ねながら事業の枠組みを作った。研修の詳細を決める過程では「木育プログラム等検討会議」の委員の意見を取り入れた。会場となる場所の下見と関係者との打ち合わせを綿密に行い、その地域の特徴を活用した研修プログラムづくりを行った。事業実施後は「木育プログラム等検討会議」の委員で評価会議を開催し、事業の評価と今後に向けた課題を整理した。

８月１５日　　北見会場の下見

８月２７日　　講師の佐藤孝弘氏と打ち合わせ

８月２９日　　講師の煙山泰子氏、西川栄明氏、長谷川敦子氏と打ち合わせ

８月下旬　　ＯＪＴ受入れ団体との調整

９月９日　　津別町役場と打ち合わせ

９月１４日　　受講生募集の広報開始

９月３０日　　和みの森運営協議会、（株）ヨシダ打ち合わせ

１０月４日　　応募締切・選定

１０月２４日-２５日　北見会場１回目実施

１０月２６日　　オホーツク木のプラザ、置戸町どま工房打ち合わせ

１０月３１日-１１月１日　札幌会場１回目実施

１月　　置戸町どま工房打ち合わせ

１月１０日-１１日　札幌会場２回目実施

１月１６日-１７日　北見会場２回目実施

２月２１日　　評価会議

●プログラムの作成

■プログラム作成

テキスト「木育達人入門」を作成した「木育プログラム等検討会議」の委員とプログラム作成に関する意見交換を行った。プログラムはテキストの章立てに合わせ、第１章から第６章の内容を２日間２回の全４日間、24.5 時間にした。当プログラムは、体験学習法を取り入れ、①まずはやってみる、②なぜそうなのかを考える、③次にどうするかを考えるという学びの循環過程を意識した。

北見

◆第１回目　2010/10/24（日）～25（月）

【10/24】

時間	章	カリキュラム	講師	講義(分)	実習(分)	合計(分)	会場
12:30	―	開会式	―	―	―	―	北海道立津別21世紀の森
13:00	5 章 1	体験学習の理解	宮本　英樹	30	30	60	
14:00	1 章	木育の理念	煙山　泰子	90	60	150	
16:30 18:30	4 章	木と生きる～人の成長と木の関係～	長谷川敦子	120	―	120	
カリキュラムの合計				240	90	330	

【10/25】

時間	章	カリキュラム	講師	講義(分)	実習(分)	合計(分)	会場
8:30	2 章 1-3	木とふれあい、木に学ぶ	佐藤　孝弘	120	120	240	北海道立津別21世紀の森
12:30	昼食						
13:30 17:30	2 章 4-5	木とふれあい、木に学ぶ	小野寺祥裕	60	180	240	加賀屋木材株式会社/丸玉産業株式会社/ランプの宿　森つべつ
カリキュラムの合計				180	300	480	

◆第２回目　2011/1/16（日）～17（月）

【1/16】

時間	章	カリキュラム	講師	講義(分)	実習(分)	合計(分)	会場
13:00	3 章	木と生きる～暮らしと産業～	西川　栄明	120	―	270	置戸町どま工房
15:00 17:30			青島　弘明	―	150		
カリキュラムの合計				120	150	270	

【1/17】

時間	章	カリキュラム	講師	講義(分)	実習(分)	合計(分)	会場
9:00	5 章 2-3	木はつながりのキーワード～プログラムの伝え方～	宮本　英樹	90	30	120	オホーツク木のプラザ
11:00	6 章	木はつながりのキーワード～プログラムのつくり方～		60	―	60	
12:30	昼食						
13:30 17:30	6 章	木はつながりのキーワード～プログラムのつくり方～	宮本　英樹	60	180	240	
カリキュラムの合計				210	210	420	

札幌

◆第 1 回目　2010/10/31（日）～11/1（月）

【10/31】

時間	章	カリキュラム	講師	講義(分)	実習(分)	合計(分)	会場
12:30	―	開会式	―	―	―	―	北海道大学遠友学舎
13:00	5 章 1	体験学習の理解	宮本　英樹	30	30	60	
14:00	1 章	木育の理念	煙山　泰子	90	60	150	
16:30 18:30	4 章	木と生きる～人の成長と木の関係～	長谷川敦子	120	―	120	
カリキュラムの合計				240	90	330	

【11/1】

時間	章	カリキュラム	講師	講義(分)	実習(分)	合計(分)	会場
7:30		移動					
8:30	2 章 1-3	木とふれあい、木に学ぶ	佐藤　孝弘	120	120	240	苫小牧市テクノセンター/苫東和みの森
12:30	昼食						
13:30 17:30	2 章 4-5	木とふれあい、木に学ぶ	上田　融	60	180	240	苫東和みの森/株式会社ヨシダ
カリキュラムの合計				180	300	480	

◆第２回目　2011/1/10（月・祝）～11（火）

【1/10】

時間	章	カリキュラム	講師	講義（分）	実習（分）	合計（分）	会場
13:00	3 章	木と生きる～暮らしと産業～	西川　栄明	120	―	240	家具工房旅する木
15:00 17:30			須田　修司	―	120		
カリキュラムの合計				120	120	240	

【1/11】

時間	章	カリキュラム	講師	講義（分）	実習（分）	合計（分）	会場
9:00	5 章 2-3	木はつながりのキーワード～プログラムの伝え方～	宮本　英樹	90	30	120	旭山記念公園「森の家」
11:00	6 章	木はつながりのキーワード～プログラムのつくり方～		60	―	60	
12:30	昼食						
13:00 17:00	6 章	木はつながりのキーワード～プログラムのつくり方～	宮本　英樹	60	180	240	
カリキュラムの合計				210	210	420	

■現地情報の収集

現地情報の収集は木育ファミリーのネットワークを活用し、研修会場となる北海道大学、苫小牧市和みの森運営協議会、津別町役場、置戸町役場、北見市オホーツク木のプラザの職員に担当窓口として協力してもらった。

札幌会場は、北海道大学遠友学舎、苫東和みの森、（株）ヨシダと打ち合わせを行い、現地を下見した。北見会場は　津別 21 世紀の森、津別町森林学習展示館、置戸町どま工房、オホーツク木のプラザを訪ね、打ち合わせと下見を行った。

現地の自然資源、文化資源、人的資源を把握し、研修会を実施する際の素材の整理と危険要因の有無を確認した。

■受講生の募集と選定方法

受講生の募集方法は、広く一般に公募した。北海道新聞へのメディアリリース、北海道と当法人のＨＰへの掲載、北海道内の木育関係施設への配布を行った。また、「木育ファミリーメーリングリスト」や「わくわく木育通信」など木育関係者に対しての情報提供を行った。定員 30 名に対して 72 名の応募があった。そこで定員を 40 名に増やし、抽選で受講生を決定した。

●研修会の実施

■北見会場:第 1 回目　平成 22 年 10 月 24 日-10 月 25 日
:第 2 回目　平成 23 年 1 月 16 日-1 月 17 日

◆第 1 回目　2010/10/24（日）～25（月）　受講者数：19 名

1 日目（10/24）　津別 21 世紀の森　森林学習展示館

12:30　開会式

13:00　体験学習の理解（ＮＰＯ法人ねおす　宮本英樹）
体験を通して概念を理解する教育手法を学ぶことを目的に、津別 21 世紀の森の樹木を活用して、体験学習法のアクティビティを体験した。

14:00　木育の理念（ＫＥＭ工房　煙山泰子）
木育の理念を理解することを目的に、木育の目指すものや各種の木育事例を紹介した。「木育の玉手箱」という教材を使った体験で木育のイメージを広げた。

16:30　木と生きる～人の成長と木の関係～（ＮＰＯ法人北海道子育て支援ワーカーズ　長谷川敦子）
「子どもの発達の特徴と過程」と「木育の感性と人を癒す木の働き」を理解するために、子どもの発達段階に関する基礎知識の講義を受けた。木のおもちゃとプラスチックのおもちゃを遊び比べることで、木の持つ特性を体感した。

18:30　終了

2 日目（11/1）津別 21 世紀の森、加賀屋木材株式会社、丸玉産業株式会社、ランプの宿森つべつ

08:00　木とふれあい木に学ぶ（北海道立総合研究機構林業試験場森林環境部研究主幹　佐藤孝弘）

森林に関する基礎的知識を身につけるために、北海道の森林の特徴に関する講座を森林学習館で行った。また、21 世紀の森で樹木観察を行い様々な樹種の特徴を学んだ。

12:00　昼食

13:30　木とふれあい木に学ぶ

（津別町役場産業課　小野寺祥裕）

森づくりの仕事や森の木が木材になる過程を理解するために、21 世紀の森で植樹を行った。加賀谷木材では丸太から経木ができるまでを、丸玉産業では丸太から合板ができる過程を見学した。津別町は森林セラピー基地に向けて町ぐるみで取り組んでおり、そのコースを実際に歩いた。全体のまとめとして、ランプの宿の研修室で、ノルウェーの森林教育・林業教育に関する事例を学んだ。

17:30 終了

◆第 2 回目　2011/1/16（日）～17（月）　受講者数：18 名

1 日目（1/16）置戸町どま工房

13:00　木と生きる～暮らしと産業～

（ノンフィクションライター　西川栄明）

木材製品の歴史や特徴について理解することを目的に、木の道具、木の文化や習慣などの歴史的背景についてスライドを見ながら学んだ。

15:00　木と生きる～暮らしと産業～
（置戸町森林工芸館　北山雅俊）
木材の循環を理解し、その最後の過程である製品になるところを学ぶために、箸づくりを行った。材を選ぶ、形を決める、材を削る、材を切る、やすりをかける、蜜ろうオイルを塗る、乾かすという工程をおこなった。

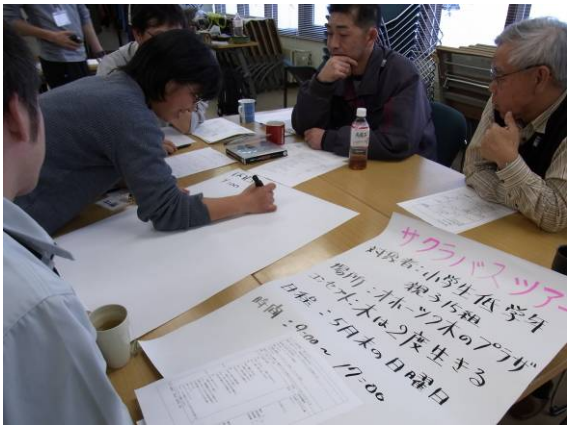
17:00　終了

2 日目（1/17）オホーツク木のプラザ

09:00　木はつながりのキーワード～プログラムの伝え方～（ＮＰＯ法人ねおす　宮本英樹）
より効果的な伝え方や指導法を身に着けるために、冬芽を使った体験を通して「伝授型」「双方向」「参加型」の伝える手法があることを学んだ。また、初めに受講生一人一人のＯＪＴの体験を全体で共有したことで、一方的に伝えるのではなく、個人の体験を踏まえた学びの促進ができた。

11:00　木はつながりのキーワード～プログラムの作り方～（ＮＰＯ法人ねおす　宮本英樹）
木育プログラムを作成できるようになることを目的に、木育プログラムを構成する活動とその構成に関する知識を学んだ。企画づくりの基礎（資源調査、対象者分析、コンセプトづくり）を学んだうえで、グループワークにより 4 つのプログラム企画をした。最後は各自の「木育宣言」や感想をひとりひとりが読み上げ、全 4 日間の研修のまとめとした。

17:00 終了



■札幌会場:第 1 回目　平成 22 年 10 月 31 日-11 月 1 日
:第 2 回目　平成 23 年 1 月 10 日-1 月 11 日

◆第 1 回目　2010/10/31（日）～11/1（月）　受講者数：20 名

1 日目（10/31）北海道大学遠友学舎

12:30　開会式

13:00　体験学習の理解（ＮＰＯ法人ねおす　宮本英樹）
体験を通して概念を理解する教育手法を学ぶことを目的に、北海道大学構内の樹木や落ち葉を活用して、体験学習法のアクティビティを体験した。

14:00　木育の理念（ＫＥＭ工房　煙山泰子）
木育の理念を理解することを目的に、木育の目指すものや各種の木育事例を紹介した。「木育の玉手箱」という教材を使った体験で木育のイメージを広げた。

16:30　木と生きる～人の成長と木の関係～（ＮＰＯ法人北海道子育て支援ワーカーズ　長谷川敦子）
「子どもの発達の特徴と過程」と「木育の感性と人を癒す木の働き」を理解するために、子どもの発達段階に関する基礎知識の講義を受けた。木のおもちゃとプラスチックのおもちゃを遊び比べることで、木の持つ特性を体感した。

18:30　終了

2 日目（11/1）苫東和みの森、苫小牧市テクノセンター、株式会社ヨシダ

08:00　木とふれあい木に学ぶ（北海道立総合研究機構林業試験場森林環境部研究主幹　佐藤孝弘）

森林に関する基礎的知識を身につけるために、北海道の森林の特徴に関する講座を苫小牧市テクノセンターの研修室にて行った。また、苫東和みの森で樹木観察を行い様々な樹種の特徴を学んだ。

12:00　昼食

13:30　木とふれあい木に学ぶ

（ＮＰＯ法人ねおす　上田融）

森づくりの仕事や森の木が木材になる過程を理解するために、苫東和みの森で、間伐、木道づくり、種蒔などの作業を行った。（株）ヨシダでは、丸太が木材になる過程を見学した。

17:30 終了

◆第 2 回目　2011/1/10（月・祝）～11（火）　受講者数：20 名

1 日目（1/10）家具工房旅する木

13:00　木と生きる～暮らしと産業～

（ノンフィクションライター　西川栄明）

木材製品の歴史や特徴について理解することを目的に、木の道具、木の文化や習慣などの歴史的背景についてスライドを見ながら学んだ。

15:00　木と生きる～暮らしと産業～
（家具工房旅する木　須田修司）
木材の循環を理解し、その最後の過程である製品になるところを学ぶために、様々な道具を使って 5 つの木の標本をつくった。木材を切る、かんなをかける、やすりをかける、穴をあける、面を取る作業を行った。

17:00　終了

2 日目（1/11）旭山記念公園「森の家」

9:00　木はつながりのキーワード～プログラムの伝え方～（ＮＰＯ法人ねおす　宮本英樹）
より効果的な伝え方や指導法を身に着けるために、冬芽を使った体験を通して「伝授型」「双方向」「参加型」の伝える手法があることを学んだ。また、初めに受講生一人一人のＯＪＴの体験を全体で共有したことで、一方的に伝えるのではなく、個人の体験を踏まえた学びの促進ができた。

11:00　木はつながりのキーワード～プログラムの作り方～（ＮＰＯ法人ねおす　宮本英樹）
木育プログラムを作成できるようになることを目的に、木育プログラムを構成する活動とその構成に関する知識を学んだ。企画づくりの基礎（資源調査、対象者分析、コンセプトづくり）を学んだうえで、グループワークにより 4 つのプログラム企画をした。最後は各自の「木育宣言」や感想をひとりひとりが読み上げ、全 4 日間の研修のまとめとした。

17:00 終了

●OJTの実施

ＯＪＴは第 1 回研修と第 2 回研修の間に実施することで、その経験を、後半の研修に活かせるようにした。道東圏、道央圏、旭川圏で計 14 のＯＪＴを実施した。ＯＪＴ実施に当たっては、受け入れ団体と綿密な調整を行い、研修生の学びに重点を置いたサポートを依頼した。ＯＪＴ当日は、研修生は自己評価シートを記入してもらい、自身の活動を評価してもらった。

番号	日程	時間	講師	場所	内容	人数
①	11/7(日)	9:00～16:00	モモンガくらぶ	登別市	登別市ネイチャーセンター「ふぉれすと鉱山」の木育プログラムで補助をする	1
②	11/18(木)	午前	煙山　泰子	津別町	津別木育事業で煙山講師について指導補助をする	6
③	11/18(木)	午後	煙山　泰子	津別町	津別木育事業で煙山講師について指導補助をする	6
④	11/21(日)	9:00～15:00	モモンガくらぶ	登別市	登別市ネイチャーセンター「ふぉれすと鉱山」の木育プログラムで補助をする	3
⑤	11/24(水)	9:00～13:00	モモンガくらぶ	登別市	登別市ネイチャーセンター「ふぉれすと鉱山」の木育プログラムで補助をする	1
⑥	11/28(日)	終日	小林　峻	東川町	ねおすの木育プログラムで補助をする	3
⑦	12/12(日)	午後	須田　修司	当別町	家具工房旅する木で園児用いすを作成	5
⑧	12/15(水)	9:00～12:00 13:00～17:00	上田　融	苫小牧市	苫小牧市の幼稚園で木育指導補助を行う	2
⑨	12/19(日)	終日	小林　峻	東川町	ねおすの木育プログラムで補助をする	2
⑩	1/9(日) ～10(月・祝)	終日	常呂川 自然学校	置戸町	常呂川自然学校が行う自然体験プログラムの運営補助をする	1
⑪	1/12(水)	午後	宮本　英樹	札幌市	札幌市のアフタースクールで木育指導補助を行う	1
⑫	1/16(日)	午前	宮本　英樹	置戸町	LEAF(北欧の森林環境教育プログラム)体験会で補助をする	5
⑬	2/6(日)	終日	荒井　一洋	弟子屈町	川湯エコミュージアムセンターで行う自然体験プログラムの運営補助を行う	3
⑭	2/19(土)	終日	柏崎　未来	黒松内町	札幌市のアフタースクールで木育指導補助を行う	1

● 次回に向けて

プログラム実施後の参加者アンケートの意見や評価会議での意見交換から得られた、今後に向けた提案を以下に整理する。

時期は 7 月（夏休み前）と 10 月（紅葉）に

木育マイスターの研修として、木に葉がついている時期だと特徴がわかりやすい。また冬に開催すると天候の影響で予定通り遂行できない可能性があるので無積雪期が望ましい。

ＯＪＴは今年度と同様に 1 回目と 2 回目の間が望ましく、子どもの夏休みに木育の現場が多いことを考慮してＯＪＴの日程を組むとよい。

「知識を学ぶ」時間と「伝える技術」を身に着ける時間を明確にする

体験学習法は、まずやってみる。そこで体験した気づきや発見をふりかえる形で理解を高める手法だが、そのやり方に慣れていない参加者にとっては、学びのポイントがずれていることがあった。講師は、担当する講義の目的を常に意識し、参加者の理解度を確認しながら進めるとよい。

北海道の森林事情の現状把握を行い、受講生の共通の土台を提供する

北海道の森林事情や林業事情を学ぶ時間を持ち、現状把握を行う必要がある。木育は広い概念であり、その考え方も多様である。現状把握をしっかりすることで様々な価値観に気づき、答えが一つではない中で自らがどのような立ち位置を取るかを考える機会が必要である。

また、北海道の森林のビジョンを共有して、北海道木育マイスターとしての共通項を整理する必要がある。

木育の考え方を受講生同士で議論する場が必要。

木育の考え方はひとつではない。道産材を使うのか、あるいは輸入材を使うのか。持続可能な北海道の森林経営のためには何が必要か。市民がより身近に木に触れる機会をつくるには何が必要か、などの課題を上げていくと、すべてを満たす方針はない。木育マイスターはそのような矛盾がある中で、自らが考え、悩みながら個々の活動を進めていかなくてはいけない。そこで、木育の考え方を受講生同士で議論する場が必要である。

木育マイスターの認定と北海道の雇用政策とを連動させる。

例えば、北海道が行う雇用対策事業等の与件に、「木育マイスター認定者を優遇する」などを付け加える。あるいは、木育マイスターの認定を受けた人を北海道内の木育関連の施設で雇用し、木育を推進する活動をしてもらうこととする。

現在の雇用対策は、農作業や工場での作業を行う作業員が多い。その活動内容は単純作業として行われ、そこに業務従事者の学びや成長は多くなく、雇用対策事業が終了した後に、その時の経験を生かし次の職場を探す、ということが難しくなっている。そこで、「木育マイスター育成研修」のような人材養成事業と雇用対策事業を連動させることで、育成した人材の有効な活用と、適材適所の人材配

置が可能となる。

また、木育マイスターの認定者が、例えば木育関連施設や木材会社、森林組合などに雇用され、木育を推進する活動をしていけば、「木とふれあい、木に学び、木と生きる」という木育の理念が多くの人々に広がっていくこととなる。このように、「木育」とは、教育・福祉と雇用をつなぐ、社会保障分野の新たなキーワードとなりうるのではないかと考える。